



第40期

中間報告書

2019年4月1日▶2019年9月30日

...for patient comfort.

● ● ごあいさつ



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

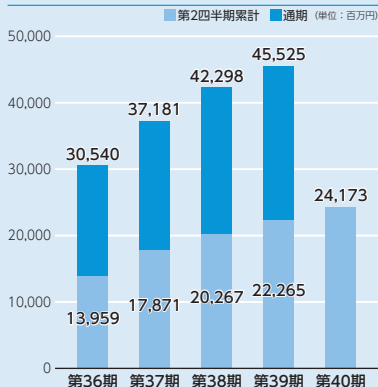
2020年3月期上期におきましては、主力であるリズムデバイスにおいて、12年振りとなる仕入先変更を行い、ボストン・サイエンティフィック社のCRM関連製品の全面的な販売を9月にスタートすることで、さらなる成長に向けた第一歩を踏み出しました。当社といたしましては、今後もリズムデバイス及びEP/アブレーションの不整脈治療領域の一層の強化を図るとともに、自社製品技術の応用による新領域への進出や、自社製品の海外展開に取り組むことで、持続的な成長のための基盤構築を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

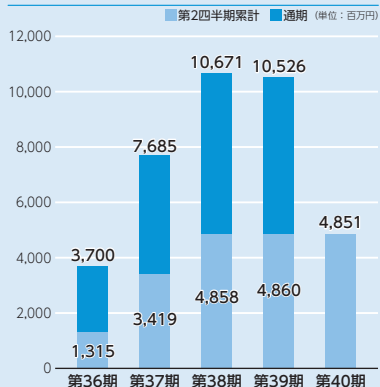
代表取締役社長 **鈴木 啓介**

主要連結財務データ

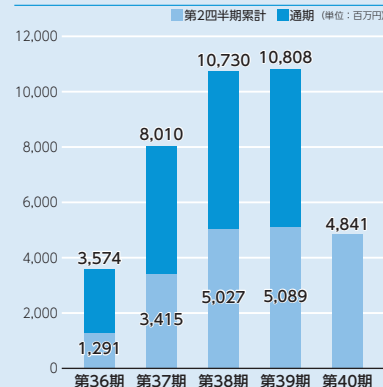
売上高



営業利益



経常利益



当上期決算のポイント

- ・リズムデバイスでのBSC社のCRM関連製品の販売開始により増収
- ・BSC社製品の一部先行販売に伴う売上総利益率の低下により、営業利益は前年同期水準に留まる

—2020年3月期上期の概要—

当上期の販売実績といたしましては、リズムデバイスにおいて、2019年9月からのポストン・サイエンティフィック（BSC）社製品の全面的な販売に先駆け、2019年4月に先行販売を開始したBSC社製のS-ICD（完全皮下植込み型除細動器）が売上増加に寄与したほか、EP/アブレーションでは、心房細動のアブレーション治療の症例数増加により、関連商品が伸長いたしました。外科関連では、自社製品のオープンス Tent グラフトが好調に推移したものの、一部商品の取り扱い終了により売上高は減少いたしました。一方、インターベンションでは、薬剤溶出型冠動脈ステントが売上増加に寄与いたしました。

利益面におきましては、仕入商品の販売が増加したものの、S-ICDについては2019年8月までの先行販売期間中における利益貢献が限られる等の要因もあり、売上総利益率は前年同期に比べ3.8ポイント低下いたしました。その一方で販売費及び一般管理費におきましては、費用の抑制に努めていることや、一部の費用の支出時期の遅れ等により、営業利益は概ね前年同期と同水準となりました。

—2020年3月期通期業績見通し—

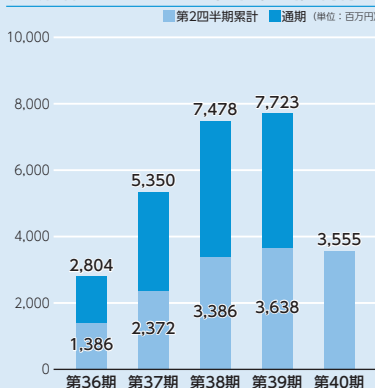
通期業績見通しにつきまして2019年11月5日に修正を行いました。販売面では2019年9月にリズムデバイスの取り扱い商品がBSC社製品に全面的に切り替わり、当初計画を上回る販売が見込まれます。一方、EP/アブレーションでは、内視鏡レーザーアブレーションカテーテルの新規施設の開拓に想定よりも時間を要していることや、インターベンションでは、薬剤溶出型冠動脈ステントにおいて厳しい競争環境が継続するものと予想しております。

販売費及び一般管理費におきましては、人件費等の一部の費目について当初の通期計画を下回る見通しであり、また薬事関連費用の一部については、来期以降の支出となる見通しとなったこと等から、営業利益は当初計画を上回るものと見込んでおります。

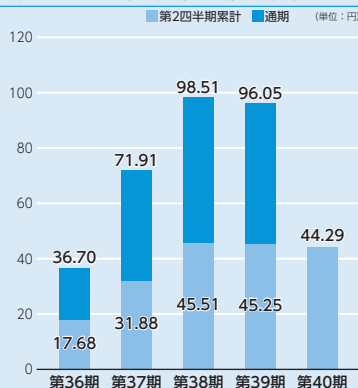
■2020年3月期連結業績予想（2019年11月5日発表）

売上高	52,450百万円（前期比15.2%増）	▲
営業利益	10,562百万円（前期比 0.3%増）	▲
経常利益	10,784百万円（前期比 0.2%減）	▲
親会社株主に帰属する当期純利益	7,675百万円（前期比 0.6%減）	▲

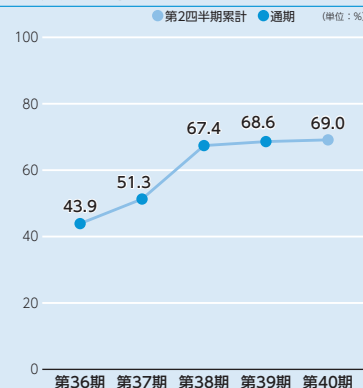
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益



1株当たり四半期（当期）純利益※



自己資本比率

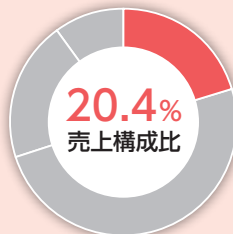


※2015年10月1日付、2016年12月1日付及び2018年1月1日付で、普通株式1株につき、2株の割合でそれぞれ株式分割を行っております。第36期期首にこれらの株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり四半期（当期）純利益」を算定しております。

品目別売上高

リズムデバイス

売上高**4,924**百万円
(前年同期比**54.0%**増▲)



不整脈を治療する植込み型の医療機器を扱う

▼主要取扱品目

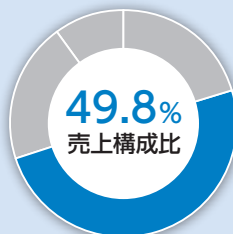
- ・心臓ペースメーカー
- ・ICD (植込み型除細動器)
- ・S-ICD (完全皮下植込み型除細動器)
- ・CRT-P (両心室ペースメーカー)
- ・CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカー)



心臓ペースメーカー

EP/アブレーション

売上高**12,045**百万円
(前年同期比**7.2%**増▲)



不整脈の検査や治療を行う電極カテーテルを扱う

▼主要取扱品目

- ・EP (電気生理用) カテーテル
- ・アブレーションカテーテル
- ・内視鏡レーザーアブレーションカテーテル
- ・心腔内除細動カテーテル
- ・食道温モニタリングカテーテル
- ・高周波心房中隔穿刺針



心腔内除細動カテーテル

外科関連

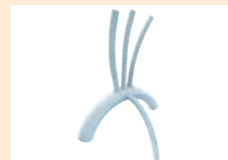
売上高**4,790**百万円
(前年同期比**14.3%**減▼)



血管や心臓の弁を置き換え治療する医療機器を扱う

▼主要取扱品目

- ・人工血管
- ・オープンステントグラフト
- ・ステントグラフト
- ・人工心臓弁
- ・人工弁輪
- ・血液浄化関連商品



人工血管

インターベンション

売上高**2,413**百万円
(前年同期比**7.7%**増▲)



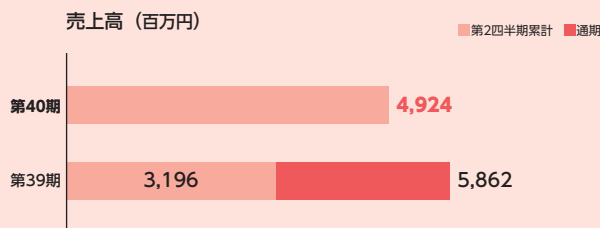
心筋梗塞等を治療するカテーテル等の医療機器を扱う

▼主要取扱品目

- ・バルーンカテーテル
- ・ガイドワイヤー
- ・貫通用カテーテル
- ・心房中隔欠損閉鎖器具
- ・薬剤溶出型冠動脈ステント
- ・血管内圧測定用センサ付ガイドワイヤー

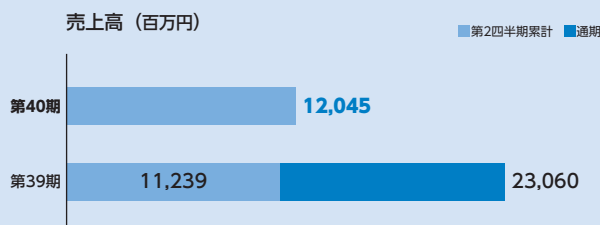


バルーンカテーテル



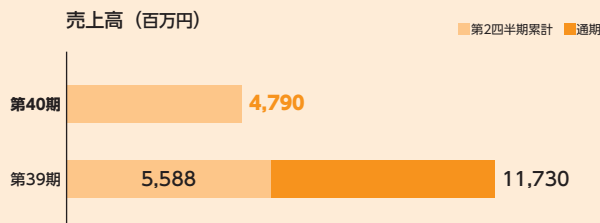
4月に販売を開始したBSC社製のS-ICDが売上高を牽引

- ペースメーカー関連は、旧仕入先製品の販売が減少したものの、新たな仕入先であるボストン・サイエンティフィック (BSC) 社の製品の販売が2019年9月から順調にスタートしました。
- ICD関連は、2019年4月より先行販売を開始したBSC社のオンリーワン製品であるS-ICD [EMBLEM MRI S-ICD] の寄与により、売上高が大幅に増加しました。



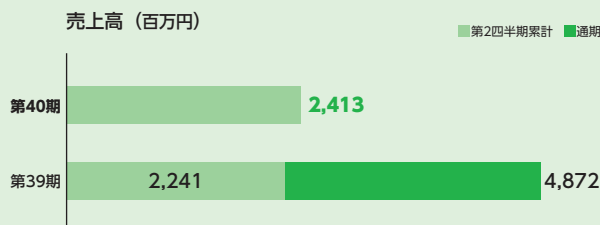
症例数の増加を受けて心房細動関連商品が伸長

- 心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景に、オンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル [BeeAT] 等の関連商品の販売が堅調に推移しました。
- 一般的なEPカテーテル及び食道温モニタリングカテーテルは、競合製品の影響を受けて販売数量が減少しました。
- 2018年7月より販売を開始した内視鏡レーザーアブレーションカテーテル [HeartLight] の販売数量が増加しました。



一部商品の販売終了による影響を、大動脈治療領域の自社製品がカバー

- オンリーワン製品であるオープンステントグラフト [FROZENIX] が、緊急性の高い症例への使用増加を受け伸長しました。
- 自社製品の人工血管 [J Graft] も、オープンステントグラフトと併用する製品を中心に堅調に推移しました。
- 胸部用ステントグラフト及び人工心臓弁関連商品の販売を終了しました。(販売終了時期：2019年3月及び5月 (記載順))



ガイドワイヤー、薬剤溶出型冠動脈ステントが売上高の増加に寄与

- バルーンカテーテル及び貫通用カテーテルは、競合他社の影響により売上高が減少しました。
- ガイドワイヤーは、高い操作性と安全性を特長とする [Amati] の寄与により売上高が増加しました。
- 薬剤溶出型冠動脈ステント [Orsiro] は、2018年10月にサイズラインナップを拡充したことを受けて販売数量が増加しました。

● 事業における主な取り組み

リズムデバイス

ボストン・サイエンティフィック社CRM関連製品の取り扱いを開始

2019年9月よりボストン・サイエンティフィック社のCRM（心調律管理）関連の全製品の販売を開始し、日本国内における同社CRM関連製品の販売は全て当社に一本化されました。同社のようなグローバルメーカーが世界の主要市場の一つである日本を販売代理店に委ねることは異例であり、国内の不整脈治療事業に長年携わってきた当社の実績が評価されたものといえます。今後は、世界的にも評価の高い同社の頻脈治療の製品群の販売を通じて、早期の市場シェア獲得を目指すとともに、不整脈治療領域における存在感をさらに高めてまいります。



完全皮下挿込み型除細動器
[EMBLEM MRI S-ICD]

EP/アブレーション

改良品の導入により心房細動関連商品のラインナップを強化

心房細動のアブレーション治療の症例数増加を受けて、関連商品が堅調に推移しております。こうした中で既存品の改良にも積極的に取り組んでおり、オンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル「BeeAT」については下大静脈からのアプローチが可能な製品を導入したほか、年明けには同製品用の次世代ジェネレーターの販売開始を計画しております。自社製品ラインナップの強化とともに、治療用商品として昨年販売を開始した内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight」の普及にも注力することで心房細動治療を幅広くサポートしてまいります。



心腔内除細動カテーテル
[BeeAT]

外科関連

自社製人工血管「J Graft」が販売10周年を迎え、累計販売本数10万本を達成

人工血管において唯一の国産メーカーであった株式会社ウベ循環を子会社化し、自社製品として2009年4月より販売を開始した「J Graft」の累計販売本数が10万本を達成いたしました。現在、大動脈治療に使用する大口径の人工血管におきまして、国内トップシェアを誇っており、同じく自社製品でありオンリーワン製品でもあるオープンステントグラフト「FROZENIX」とともに、利益貢献の観点からも、外科関連事業を支える中核的存在となっております。今後も日本の医療現場を支える国産製品として、たゆまぬ製品改良に努め、医療現場への提供を続けてまいります。



インターベンション

肝癌治療用ラジオ波焼灼システムの普及に取り組む

当社は自社製品技術の強みを活かせる新領域への進出を中長期における重要課題と位置づけており、消化器領域へ積極展開を図っております。2017年に販売を開始した大腸ステントに引き続き、2019年12月より、肝癌治療用ラジオ波焼灼システムの本格販売を開始いたしました。

これは当社の主力事業であるEP/アブレーションで長年培った技術の応用から生まれた製品であり、肝癌の病変組織を焼き切る治療に用いられます。日本の臨床現場のニーズをきめ細かく反映した製品を導入することで、不整脈治療だけでなく、癌治療へと事業領域を広げてまいります。



肝癌治療用ラジオ波焼灼システム
[arfa]

トピックス

JPX日経インデックス400の構成銘柄に選定

当社株式は、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される「JPX日経インデックス400」の2019年度（2019年8月30日～2020年8月28日）構成銘柄として選定されました。



自己株式の消却

当社は、自己株式について、以下のとおり消却を実施しました。

1. 消却する株式の種類 当社普通株式
 2. 消却する株式の数 5,000,000株（消却前の発行済株式総数に対する割合5.53%）
 3. 消却日 2019年5月31日
- （参考）消却後の発行済株式総数 85,419,976株

医療機器メーカーとしてスポーツ支援に取り組む

当社は、長年にわたり不整脈治療領域で事業を行ってきた経験を活かし、より安心してスポーツに取り組める環境づくりをサポートするため、国内男子プロバスケットボールチーム「宇都宮ブレックス」や日本プロサッカーチーム「北海道コンサドーレ札幌」等のスポーツチームに対し、AED（自動体外式除細動器）「カーディアックレスキュー RQ-6000」の寄贈や定期的な救命救急の講習会を実施しています。



宇都宮ブレックスでの講習風景

オープントントグラフトがグッドデザイン賞を受賞

当社の自社製品であるオープントントグラフト「FROZENIX」が、2019年度グッドデザイン賞を受賞しました。患者様への身体的負担を低減する独自のデザインが評価されました。昨年度の心腔内除細動カテーテル「BeeAT」に続き2度目の受賞となりました。



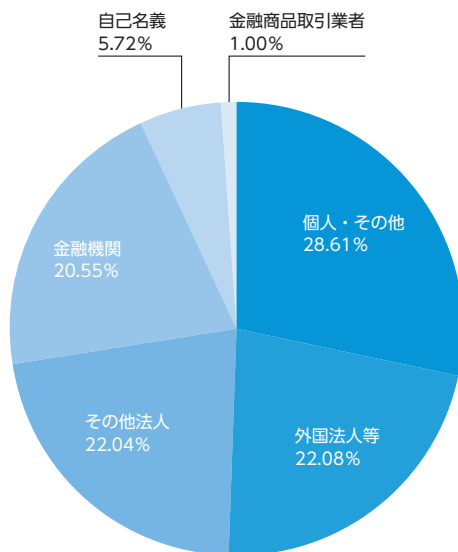
オープントントグラフト「FROZENIX」

株式情報

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数	346,400,000株
発行済株式の総数	85,419,976株
株主数	14,265名

所有者別株式分布

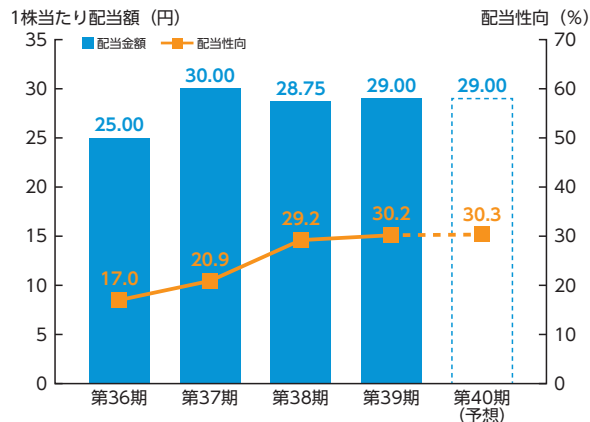


大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
エムティ商会株式会社	9,860	12.24
KS商事株式会社	8,519	10.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4,644	5.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,096	3.85
鈴木啓介	2,650	3.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	1,168	1.45
JP MORGAN CHASE BANK 385151	1,068	1.33
第一生命保険株式会社	1,026	1.27
日本ライフライン従業員持株会	990	1.23
野村信託銀行株式会社 (投信口)	965	1.20

(注) 持株比率は、自己株式 (4,889千株) を控除して計算しております。なお、自己株式には役員報酬BIP信託が保有する当社株式 (113千株) および、信託型従業員持株インセンティブ・プランが保有する当社株式 (213千株) は含めておりません。

配当実績

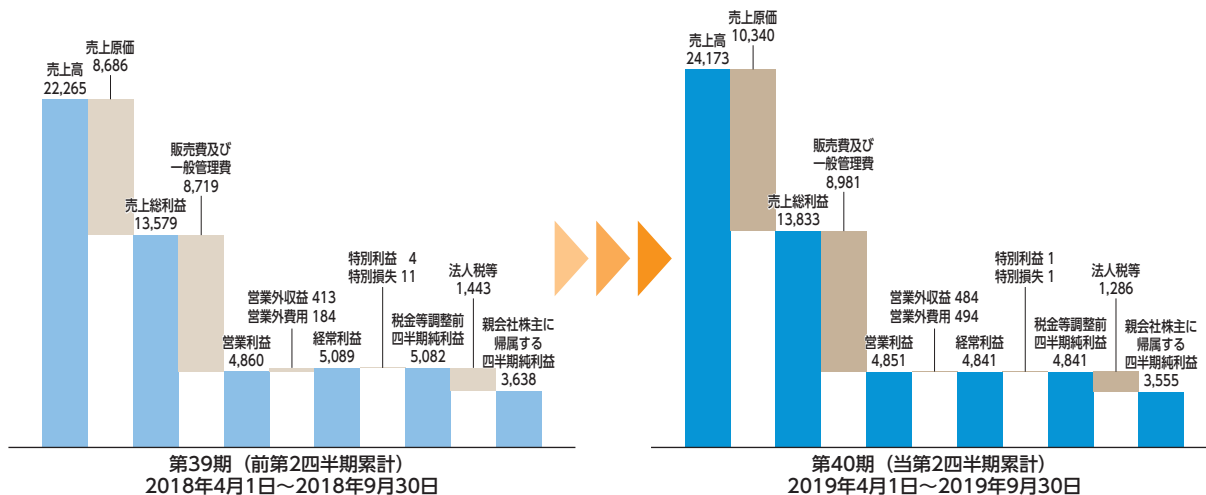


※2015年10月1日付、2016年12月1日付及び2018年1月1日付で、普通株式1株につき、2株の割合でそれぞれ株式分割を行っております。1株当たり配当額においては、実際の配当額を記載しております。

連結財務諸表

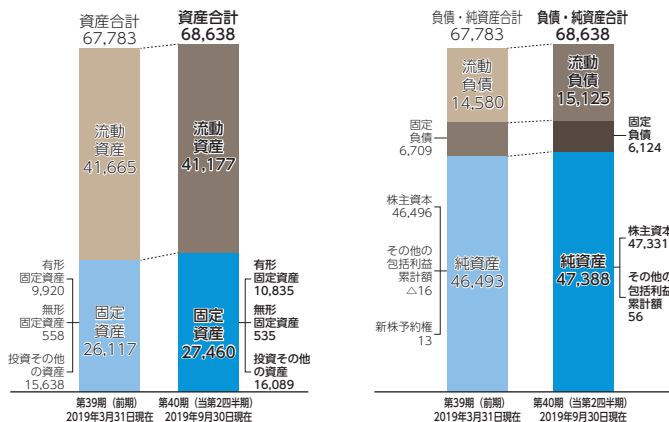
四半期連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



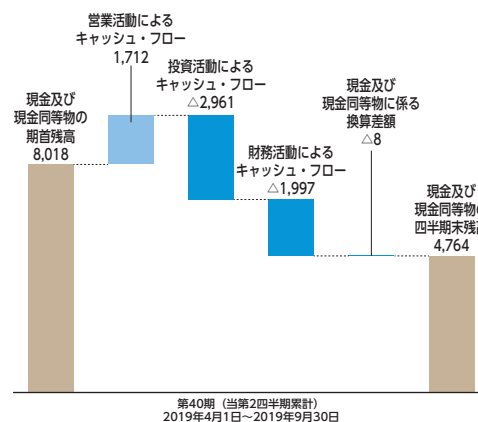
四半期連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



会社概況

会社概要 (2019年9月30日現在)

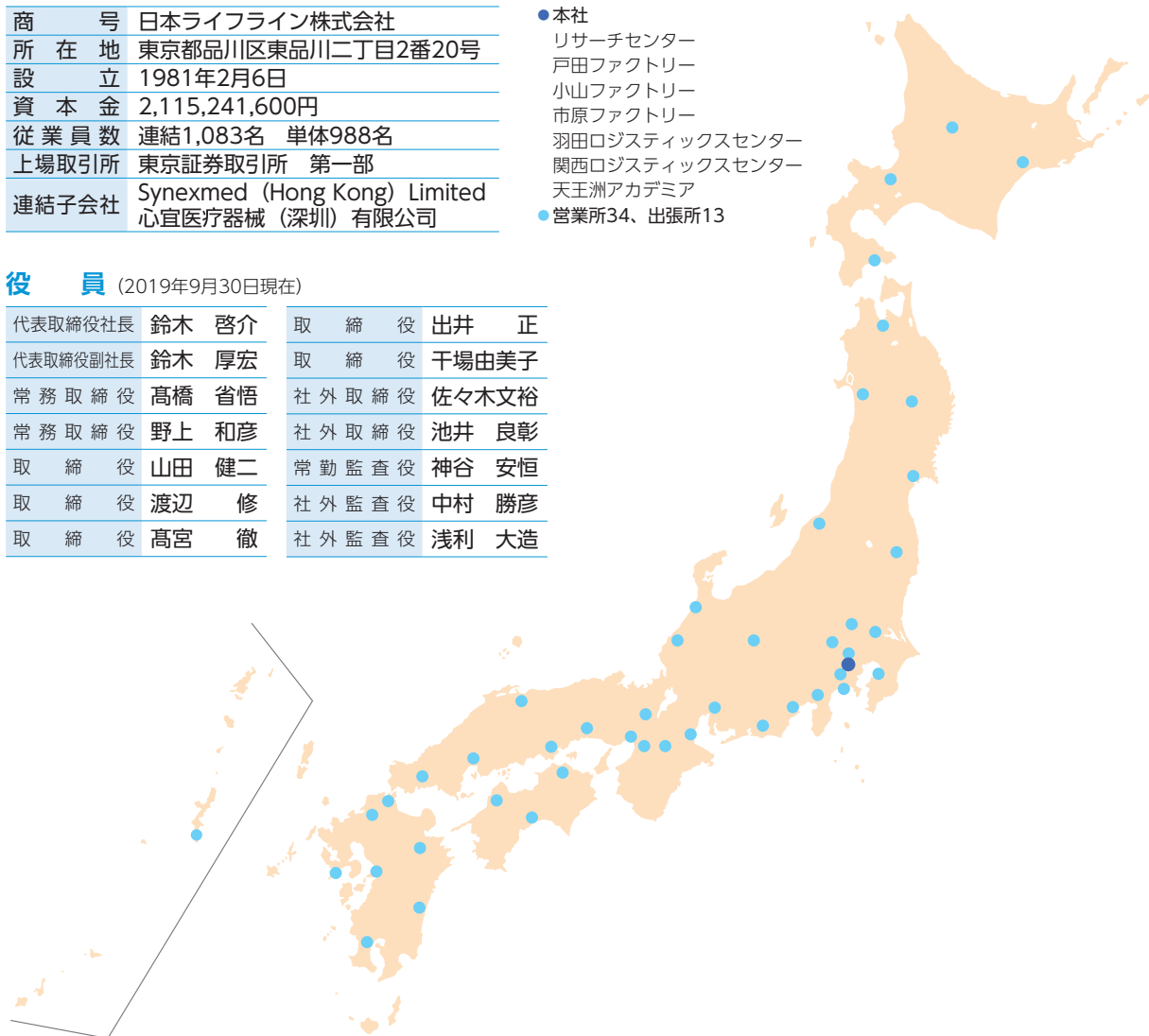
商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	1981年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結1,083名 単体988名
上場取引所	東京証券取引所 第一部
連結子会社	Synexmed (Hong Kong) Limited 心宜医療器械(深圳)有限公司

事業所 (2019年9月30日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
小山ファクトリー
市原ファクトリー
羽田ロジスティックスセンター
関西ロジスティックスセンター
天王洲アカデミア
- 営業所34、出張所13

役員 (2019年9月30日現在)

代表取締役社長	鈴木 啓介	取締役	出井 正
代表取締役副社長	鈴木 厚宏	取締役	干場由美子
常務取締役	高橋 省悟	社外取締役	佐々木文裕
常務取締役	野上 和彦	社外取締役	池井 良彰
取締役	山田 健二	常勤監査役	神谷 安恒
取締役	渡辺 修	社外監査役	中村 勝彦
取締役	高宮 徹	社外監査役	浅利 大造



株主メモ



決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の 基準日	3月31日
配当金 受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137- 8081 新東京郵便局私書箱第29号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネット ホームページ〉	https://www.tr.mufg.jp/daikou/

株式に関する住所変更等 のお届出及びご照会について

1. 住所変更、単元未満株式の買収・買増請求、配当金受取 方法の指定・変更等

- ▶ 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- ▶ 特別口座に登録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行
にお問い合わせください。

2. 未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店
でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。



最新の会社情報及びIR情報は 当社ホームページをご覧ください

当社の最新ニュース、製品案内及び財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧いただけます。

<https://www.jll.co.jp/investors/>



IR-eNews 投資家情報メールマガジン



IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。